

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	504 ごみ収集経費	会計	01	一般会計
		款	04	衛生費
		項	02	清掃費
		目	02	塵芥処理費
基本 施策	24 ごみを減らす生活を送る	細目	262	ごみ収集経費
		細々目	01	ごみ収集経費
行革大綱の重点事項番号				
担当課名	コード	100800	担当者氏名	高見 有紀
	名称	人権生活環境部清掃事業課	連絡先	20 - 1050 (内線)

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	市民から排出される一般廃棄物	※対象件数
成果(どうする)	委託・直営収集における適正な分別指導により、分別やりサイクルへの理解が図られ、ごみの減量につながる。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成	年度
終了年度	平成	年度
H23 事業 内容	平成24年度資源・ごみ収集カレンダー作成と同時に平成22年度発行の分別ガイドブック改訂版から変更のあったものをダイジェスト版にして各戸配布し、更なる分別の徹底、啓発に努めた。 【資源・ごみ収集カレンダー等作成部数】日本語版:43,900枚、外国語版:3,600枚 【直営収集】ペットボトル大型店舗回収:64,76t、廃食用油(上野地区):7,110ℓ、上野管内分別指導【集積場整備】改修4件 平成24年度に向けて高齢者や障がい者を対象とした粗大ごみ戸別収集(福祉収集)事業の開始を計画しており、平成22年度から引き続き福祉部門との関係機関と協議・検討し、予定通り平成24年度から実施の運びとなった。	
社会情勢の 変化等	平成24年度から高齢者や障がい者を対象とした粗大ごみ戸別収集(福祉収集)事業を実施しているが、一般の戸別収集を計画していくなど事業範囲の拡大が必要である。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体 (委託先)	[ ]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
戸別収集システム審議会	目標	回	0	3	0	0
	実績	回	0	4		
市広報によるごみ分別方法の啓発	目標	回	6	4	5	5
	実績	回	6	5		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H22	H23	H24	H25
一般家庭から排出されるごみの搬入量		指定ごみ袋制度の導入成果による可燃ごみの減量を指標とする。	トン	目標	17,191	目標	17,020
				実績	17,192	実績	17,781
資源ごみの再資源化量		指定ごみ袋制度の導入成果と適正な分別による再資源化量を指標とする。	トン	目標	3,600	目標	2,873
				実績	2,845	実績	2,929

投入コスト	直接事業費計(A)	H22 決算	H23 決算	H24 当初予算	H25 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
A の 財 源 内 訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他			2,240	
	一般財源	356,867	357,831	362,491	364,707
	事業投入人件費(B)	3.5人 25,200	4.8人 34,560	6.5人 46,800	6.5人 46,800
	フルコスト(A)+(B)	382,067	392,391	411,531	411,507

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業 【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業 【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業 【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを担いきれず、これを補完する事業 【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業 【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業 【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業 【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業 【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業 【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業 【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業 【必12】事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業 【必13】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】  財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業 【必13】【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
有効性	【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。 【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	【達1】当初設定した計画を <b>100%</b> 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 【達2】予算の繰越の有無 <b>無</b> 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【効3】受益者負担を求めることができる事業である。 【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。 【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	伊賀市では粗大ごみの集積場収集を実施しており、現時点での対象の設定は妥当と考えられるが、今後新たなごみ処理施設の建設と合わせて収集体制を整備していく。

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	高齢者や障がい者のみの世帯における粗大ごみの収集体制を平成24年度までに構築する。
昨年度の取組状況	【状況】 <b>計画のとおり進んでいる</b> 【詳細】粗大ごみ戸別収集(福祉収集)事業計画について、関係機関・関係部署との協議を重ね平成24年4月から事業実施となった。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	馬場 幸雄
事業の方向性	【方向性】 <b>拡大・充実</b> 【理由】ごみ分別による再資源化を市民に啓発し、適正な分別を指導する。
現時点における課題、その他	新たなごみ処理施設の計画とそれに合わせた分別収集を検討していく。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	また、効率の良い処理施設を計画するための先進事例の資料収集を行う。資源再利用物回収奨励金及び生ごみ処理容器購入費補助金交付事業のあり方(制度)について、他の自治体の状況を調査し、関係機関と協議のうえ、平成25年度までに一定の方向性を定める。

コード	名称	区分	コード	名称	
事業名	506 ごみ収集経費	会計	01	一般会計	
		款	04	衛生費	
		項	02	清掃費	
基本 施策	24 ごみを減らす生活を送る	目	02	塵芥処理費	
		細目	262	ごみ収集経費	
		細々目	01	ごみ収集経費	
行革大綱の重点事項番号					
担当部課名	コード	753000		担当者氏名	
	名称	青山支所住民福祉課			
				連絡先	52 - 3227 (内線)

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	ごみ排出者(市民・事業者)	※対象件数
成果(どうする)	ごみ集積場周辺の環境整備が整うことにより、ごみの適正排出・適正処理が図られる。	
根拠法令・要綱等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、伊賀南部環境衛生組合廃棄物の処理並びに一般廃棄物処理施設の設置及び管理に関する条例	
開始年度	平成 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H23 事業 内容	ごみ集積場整備のためのごみパレットの購入並びに家庭からのごみの適正排出とごみ処理施設での適正処理を図るためのごみ収集日程表の作成(日程表には、日程のみならず家庭でのごみの分け方、出し方を併せ掲載し、分別の徹底を促している。)	
社会情勢の 変化等		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

運営主体	
1 (委託先)	[ ]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
ごみパレットの購入	目標	個	10	9	8	8
	実績		9	6		
ごみ収集日程表の作成	目標	回	2	2	2	2
	実績		2	2		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H22	H23	H24	H25
減量化率(本年度ごみ処理量/前年度ごみ処理量)		前年度のごみ処理量を分母とし、本年度ごみ処理量を分子とする。	%	目標	95.0	目標	95.0
				実績	94.1	実績	94.0
資源化率(資源ごみ処理量/ごみ処理量)	資源化率(資源ごみ処理量/ごみ処理量)：環境衛生組合処理分+民間事業者処理分	本年度資源ごみ処理量を分子とする。資源化率を指標とする。ごみ処理量=環境衛生組合+民間事業者処理分	%	目標	20.0	目標	20.0
				実績	20.5	実績	21.0

投入コスト	H22 決算		H23 決算		H24 当初予算		H25 当初要求	
	(千円)		(千円)		(千円)		(千円)	
直接事業費計 (A)	441		514		537		537	
A の 財 源 内 訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
一般財源	441		514		537		537	
事業投入人件費 (B)	0.2人	1,440	0.2人	1,440	0.2人	1,440	0.2人	1,440
フルコスト (A)+(B)		1,881		1,954		1,977		1,977

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業 【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業 【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業 【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業 【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業 【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業 【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業 【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業 【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業 【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業 【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業 【必12】事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業 【必13】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 ごみ収集日程表を各戸配布することにより、家庭からのごみの適正排出を促進し、ごみ処理施設における適正処理に寄与している。 財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業 【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】 パレットは、使用による消耗が激しく、一定期間での入換えが必要。ごみ収集日程表の各戸配布は、秩序あるごみの排出を維持するために不可欠である。	
有効性	【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。 【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	【達1】当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 【達2】予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	容器包装プラスチックをはじめとしたごみの分別徹底を図るため、分別方法を詳細に記載したより理解しやすい日程表を作成、配布する。
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 【効3】受益者負担を求めることができる事業である。 【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。 【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	青山ごみ収集日程表のごみの分け方・出し方等の内容について、さらに分かりやすいものを作成し、分別の徹底を図っていく。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 ごみ収集日程表の内容について検討を重ね、分別の徹底周知を図った。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	中 義晴
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 今後もごみの分別の徹底を図り、ごみの減量を促進していく。
現時点における課題、その他	容器プラスチック、資源ごみ等の分別の徹底を図っていく。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	青山ごみ収集日程表によるごみの分け方・出し方等の内容について、さらにわかりやすいものを作成し、分別の徹底をはかりごみの減量に繋げていく。